

# 新年を利用して子供の矯正

天野誠齋

## □新年と家庭教育

年の暮れと新年は、人が生活するに就いての大きい二つの關所です、もう今年も押しまつたと云へば、怠けて居た入までが、そろ／＼警戒を怠したり、お正月が直きに來るといへば、

『もう幾つ寝たらお正月が來るでせう』

と子供は非常なる樂しみをもつて、其の日を待つのです、けれども新月といつても別に新らしい月ではあゝい如く、新年の實體は、矢張り去年の生活を前に置いて、子供に

『お正月以前にした悪い事』や

『お正月以前に學んだ事が、まだ十分でない事』や、更に進んで

『云つてはならぬ言葉遣ひ』や

『爾ういふ事は、古い年と共に、流れ去つたから之れから先きは新しく改めて、去年したやうな過ちや、しかたを成るべくこゝない事』や

是等の事を新年の初において、動物あり、植物ありのお飾りや、新年に就いて新に改まつて見ゆる萬物について對照して説明し、

『人間もこのやうにせなくてはならぬ』と教へる事が必要です、

故に少々形式に涉つても、其から有きたりのお正月の儀式、家庭において例年あすべき事だけは正しくして見せる事が大切です、若し是等にも関却して、

『かに新年だといつて、去年のつづきをするので

これを新年と稱し、初春などいふのは、人心を新たに、更にあすべき事を、もう一層よくしてやりたいと云ふ古人の賢い考へから来たものです』

であるから新年を單に娛樂の時、屠蘇を祝ひ、遊ぶときはかり解しては大間違ひです、年の暮れの警戒もさる事ながら、新年の心持ちを、より多く生活の上、殊に家庭教育の上に應用して見たく考へます。

子供にとつてのお正月は、年中行事中一番に楽しい、一番に嬉しい、これだけ最も深い印象を興へるの時なのです、そこでお正月と云ふ目的物が来たのを、

『去年の生活のつゞきをするのではないか、子供には小遣錢でもたんと與へて、玩具でも買つてやつて、奇麗な着物でも着せて、餅でも喰べさせて、遊びたいだけ遊ばせれば宜いなど云つて自分は去年の儘の服装で、獨り室内に燻つて居る人が若しありとしたならば、其人の考へは

進歩的でないばかりか、此の子供の最大娛樂の時機を利用すべき、唯一の家庭教育を忘れて居る怠げものと云はなければなりません』

□まだ來かい正月の樂み

娛樂の半面の教育、教育の半面の娛樂、其の利益と効果は理屈にあらまい、自然のうちに含まれて居り、また自然の中から生れ出るものです。またこの方が改まつて教育をするときよりも効果があるのです。

見やうによつて新年と云ふ時期は

『人に整理を與へ』

『人に規律を與へ』

『今迄なげやつて置いたことを、顧みさする』

と云ふ意味が大にありまじやう。

之れを子供にしましても

『サアもうお正月が直きですよ、そんな汚ないお頭では笑はれますから、髪を刈つてお出でなさい、机の上もそんな亂雜では不可いから、奇麗

に片づけで置きなさい、お正月はお休みがつま  
くから、今から其分を十分勉強しておきなさい』  
と云ふ如くしますれば、子供は、先づ其の聲に應  
じて十人が十人、まだ來ないお正月を楽しみに必  
ず言はれた通りにするものです、ですから子供を  
改めさすこと、新たに行はせることは、お正月の  
やうな、若しくは之れと同じやうな、子供として  
非常に愉快がる時と、場合を未來に於て、さうし

て大に實行を申聞するです、さすれば大抵のこと  
は、譯も亦く實行をします、つまり

『子供の實行』

『子供の反省』

には必ず娛樂の未來、まだ來らない夫れを目的物  
として、順々に申聞ければ、子供として左まで苦  
しめずに、効果が顯はれて來るやうになります。

子供は遊ぶのが本位であり、遊ぶのが仕事であります、その遊び方は年齢に依つて異つて居りますけれど、遊ぶには  
先づ遊びの方法を知らねばなりません。又遊ぶ材料がなければなりません。遊びの方法を知らず爲めには、大人が教  
へてやらねばなりません。雨の降りつゝいた日などは、頭をしぼつて、遊ばせることに努力しなければならぬのであ  
ります。即ち子供を遊ばせるといふ事の意義は、二様の意味を含んで居ります。

一は大人が直接遊び相手となつて遊ばせてやること

二は子供同志が自發的に遊び得るやうな境遇に置いてやること

(子供の遊ばせ方の一章より)